



日吉の丘

2009.12.1
Une colline de
Hiyoshi
Vol.10



ALUMNI ASSOCIATION NEWSLETTER

「集え友よ!我らここに!」 創立50周年に向けて



函館ラ・サール高校同窓会会長

齊藤 裕志 (5期)

同窓生の皆様、お元気でご活躍のことと思います。さて、函館ラ・サール学園創立五十周年記念式典・祝賀会まで、いよいよ一年となりました。創立五十周年という記念すべき年が近づくにつれ、同窓会長として、その責任の重みに身が引き締まる思いです。これからさらに、学園側と一致協力して、五十周年記念事業の達成に向けて、精一杯努力する所存でございますので、皆様方には、これまで以上のご理解ご協力よろしくお願いいたします。

さて、学園側からの要請で二〇〇六年より記念事業に対する募金活動がスタートしております。その活動強化のため、この四月に募金実行委員会が発足し、その委員長に同窓会顧問の菅野剛造氏(一期生)が就任しました。十月二十三日現在、二〇〇〇万円を超える浄財が集まっておりますが、あと一年間でラストスパートをかけ、目標額の三〇〇〇万円を超える寄付金が集まるよう努力して参りますので、皆様方の力強いご協力をあらためてお願いしたいと思

ます。尚、詳細につきましては、同封しました、冊子をご覧ください。

また、学園から、五十周年の祝賀会については、同窓会が主催するよう要請を受け、同窓会副会長の星野裕氏(五期生)を実行委員長とし、学園と調整を図りながら、準備を進めております。記念式典当日の十七時三十分より実施予定ですが、同窓生をはじめ、来賓、学園関係者、在校生の保護者、同窓生の保護者と家族等、多くの方々にご出席いただき、一〇〇〇人規模の盛大な祝賀会になるよう計画しています。是非、この日にあわせて同期会を開催する等、各期で協力していただきますようお願いいたします。また、祝賀会実行委員会では、記念式典と、祝賀会の間に、記念フォーラムを企画しております。これは、函館ラ・サール同窓生が、各界で活躍している姿を同窓生のみならず、在校生、その保護者へアピールし、また、市民にもラ・サールの存在感を再認識していただくためのものです。今後、内容を充実させるために、皆様方のご理解とご協力よろしくお願いいたします。

式典・祝賀会の翌日には、学園では、オープンスクールの予定です。日曜日ではありますが、午前中を授業、午後にはクラブ活動の時間に充て、同窓生はもとより、在校生の保護者、一般の見学者を含め多数の方々に来校、来寮していただき、学園の雰囲気を感じてもらおうという企画とのこと。もしこれが実現すれば、特に我々同窓生にとっては、ホームカミングデイとして、当日は懐かしい学舎で当時の思い出に浸り、また、在校生とのふれ合いの中で、

楽しく充実した時間を過ごせる、またない機会となることでしょう。同窓会としても、是非、オープンスクールの内容がより充実したものになるよう協力していきたいと考えています。

五十周年に向けて、これを契機に我が愛する母校、函館ラ・サール学園が、益々発展するよう精一杯努力していく所存です。皆様方の格段のご高配をうけたまわりますようお願い申し上げます。そして、同窓生の皆様におかれましては、どうかこの一年間が、ラ・サリアンとしての、充実したものになりますように、また、来たる記念日には、是非、記念行事に多数ご参集いただきますよう、心より期待いたしております。

満面の笑顔をもって函館でお会いしましょう。「集え友よ!我らここに!」





同窓会主催 創立五十周年 記念フォーラム・祝賀会のご案内

二〇一〇年、函館ラ・サール学園は創立五十周年を迎えます。その記念事業の一環として、同窓会は創立記念式典が挙行される十月二十三日、函館市内で記念フォーラムおよび記念祝賀会を開催いたします。

校歌にも謳われる「集え友よ、我らここに」をスローガンに、全国・全世界で活躍中の同窓生の皆様が一同に集い、それぞれの経験や意見を発表し、活発なコミュニケーションを図る貴重で有意義な場を創りたいと考えています。

青春の一時期を共に学んだ函館の地で、過去の思い出を懐かしむとともに、同窓生同士の議論・交歓を通して明日への活力を充電していただきたいと思えます。なお、記念フォーラムは在校生・保護者のみならず市民の皆様にも公開し、函館ラ・サール学園五十年の意義と存在感とを広く再認識していただく機会にもしたいと考えます。

皆様の積極的な参加をお待ちしています。

開催概要

【開催日】平成二十二年十月二十三日（土）

【会場】函館国際ホテル（予定）

【プログラム】

■十三時三十分～十四時五十分 第一部

基調シンポジウム

「地域主権国家をめざして」（仮題）
日本経済の成長力に陰りが生じる中、地域間格差の拡大、地方の疲弊が大きな社会問題となっています。この問題に対しては国と地方のあらたな役割分担のあり方を巡って、「地方分権」、「地域主権」などが議論されてきています。

本シンポジウムでは、ラ・サールOBの中から自治体の首長、政治家、研究者、報道人などを招き、このテーマを徹底討論いたします。

【開催場所】函館国際ホテル・大ホール

【開催形式】四～五人によるパネルディスカッション

■十五時～十七時十五分 第二部

トークセッション「異能結集」（仮称）

各界で活躍しているOBによる短時間の連続講演会。四つのセッションを四会場で同時並行で実施します。

【開催場所】函館国際ホテル・会議室

【開催形式】1コマ30分×4コマ×4セッション

（会場）Ⅱ講師はミニマム16人

①経済・経営・コミュニケーションセッション

起業家、経営者、地域活性化・まちづくり活動家

②医療・先端學術セッション

医師、學術研究者

③文化・芸術セッション

作家、報道関係、音楽家、デザイナー

④懐かしの母校セッション

OBと元教員などによるリレートークで参加者と共に昔をふりかえる

■十五時～十七時 第三部

ポスターセッション「異能の出会い」（仮称）

ポスター展示により、OBが経営する企業のPRや技術者の研究発表の場を設け、ビジネス・研究などのマッチング・名刺交換会等で広く同窓生のネットワーク拡充を図ります。同窓会グッズ販売、地元函館の企業による物販および鹿児島（鹿児島ラ・サール同窓会による）の物産展も併設します。

【開催形式】国際ホテルの会議室前ロビー

第二部（トークセッション）と同時開催。

【コマ数】20～30社（者）を予定（展示PR系、物販・飲食系、研究発表系）

■十七時三十分～二十時

記念祝賀会・パーティ

【開催場所】函館国際ホテル・大ホール

※十九時以降、同期会開催の場合は順次退出し

ていただいで結構です。

その他

・市民会館の記念式典（学園主催 12時終了予定）

・参加者の移動はバスを手配いたします。

・パネリスト、セッション発表者の人選はこれから開始。同窓会公式サイトなどで自薦・他薦をよびかけていきます。

・祝賀会参加費 一〇、〇〇〇円（同伴者・学生 六、〇〇〇円）を予定。フォーラムのみの参加は無料

・参加登録 事前登録とします。二〇一〇年四月頃に、書面で参加登録のご案内を行います。

・別途同窓会サイトでも告知します

・別途、新聞広告等への協賛申し込みを募集いたします。また、ポスターセッションには出展料

の負担をお願いいたします。

函館ラ・サール学園創立五十周年記念事業実行委員会

委員長 星野 裕（五期）

委員 岩塚 晃一（二十期）

委員 菅原 雅仁（二十七期）

委員 永澤 大樹（二十九期）

委員 永澤 大樹（二十九期）

ラ・サール同窓会

世界大会・アジア大会等への

積極的参加について



来年三月二十日に、マレーシアのマラッカで、マレーシアのラ・サール同窓会連合会の大会が開催されますが、アジア諸国のラ・サール同窓会へ同大会への参加の要請が来ています。

函館ラ・サール学園理事長のラベル先生は、この大会をアジア地区同窓会と位置づけ、日本からも鹿児島と函館が協力して参加すること呼びかけられています。そして、再来年、マニラで開催が決まっている世界同窓会大会への参加へと広がっていくことを期待しておられます。

鹿児島ラ・サール同窓会の野田会長は、アジア

との連携、そして、世界の同窓生との協働関係を築いていくことは大事だとの考えで、これらの大会に正式にエントリーして、日本の同窓会活動を紹介し、また、函館と協力して活動できることがあれば取り組んでいきたいと考えておられます。それを受け、函館同窓会としても鹿児島同窓会と協力して、取り組む意向であることをお伝えしております。

これからの具体的な準備としては、函館と鹿児島両校の同窓会東京支部が南北合同の窓口となり進めていくことになっています。これは、従来から両校の東京支部において共同で二十一世紀委員会を組織する等、様々な活動実績があることからお願いすることになりました。

今後、両校の同窓会が協力することにより、日本のラ・サール同窓会として、その活動が、より充実したものへと発展していくことが期待されます。

上記の二十一世紀委員会につきましては、同窓会員の中にはご存じでない方も多いかと思えます。詳しくはホームページをご覧ください。ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

「北と南のラ・サール学園卒業生は二十一世紀を迎えるに当り、世界に貢献する開かれた同窓会を目指し、二十一世紀委員会を立ち上げました。その目的は、争いの無い平和な社会と貧困の撲滅、それを担保する教育の充実、草の根海外交流などです。」・・・ホームページより引用

海外交流委員会
<http://www.lasalle-alumni.jp/Foreign/jp/index.htm>
育英基金委員会
<http://www.lasalle-alumni.jp/SCOLA/>

今後、アジア大会、世界大会について、同窓会ホームページで紹介していきたいと思っております。



ラベル理事長からのメッセージ 理事長から ハイチ寄付のお礼

親愛なる皆様、私はこの紙面をかりて、タイのバンブースクールのための募金活動に際して、函館、東京、西日本、札幌、そして仙台における同窓会の定期総会における、皆様のご協力に対して感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。また、昨年は、何と一ヶ月に四回も台風襲われ、甚大な被害を受けたハイチの学校を救済するため、寄付を頂きました。重ね重ね、同窓生の皆様の温かなご支援に対して感謝いたします。今年タイへの寄付は、二四〇人の子ども達と、彼らの親である数名の大人達の為です。その子ども達のグループが発見された二〇〇八年九月から、タイのラ・サールのブラザー達は彼らの世話をしています。子ども達の人数は常に増えています。彼らは山岳地帯に住んでいるのですが、ほとんどがミャンマー出身です。その彼らのための学校は、ミャンマーとタイ西部の国境地域、スリーパゴダ峠にあります。その学校は実質的に最初から建てられなくてはなりません。壁になるような物もなく、電気もなく、トイレもなく、十分な飲み水もなく、机も、本もほとんど全てがない状態でした。ただ、先生役のボランティアの人々だけはいりますが、彼らにはちゃんとした資格もなく、給料も支払われてはいません。

今年、皆様の温かなお気持ちのおかげで、同窓会と二、三の他のラ・サールファミリイの方々から総額二九五、九六二円がタイのバンブースクールのために集まりま

した。そのお金は、十月にタイに送金されています。その資金は、来たる雨季に備えて、子ども達のための飲用水のタンクを作ることに当てられます。我々が何らかの形でタイのブラザー達に、支援をしたいということをお伝えしたところ、彼らからの提案がそのタンクだったのです。彼らは我々の支援に対して、大変有り難く思い、感謝しています。

最後に、親愛なる同窓会の皆様に感謝の気持ちを再度お伝えして、お礼のご挨拶とさせていただきます。皆様はラ・サール精神のひとつの素晴らしい実例を、我々に示して下さいました。

Brother Andre Labelle



フェルミン校長からのメッセージ ALIVE

先日、ある卒業生が廊下を歩きながら「このにおいては、昔と変わらないな」と言っていました。確かに、函館ラ・サールの校舎には、卒業生には懐かしい「において」があるようです。この「において」は昔から壁や床に染み込んでいるのでしょうか。それは元気な若者の「において」とも言えます。うが、「ラ・サール精神」の「において」とも言えるのではないのでしょうか。この「において」と同じように、一九六〇年に開校した皆さんの母校の精神は五十年の歳月を越えて今も生きています。確かに皆さんの母校は進化しています。今年、函館ラ・サール学園は中高一貫校になって十一年目を迎えました。中学生は本校に新しい顔と力を

もたらしています。今年、中学五期生（高校四十七期生）が六年間の学園生活を終了し、卒業しました。高校だけの時代の卒業生（一、四十二期生）は来校され、中学生の姿を母校で見かけると違和感を感じることでしよう。極端な話ですが、「もう自分の函館ラ・サールではない」という印象をもってしまうかもしれません。しかし、高校だけの時代と同様に、ラ・サール・ファミリー・スピリットを大切にして、在校生は成長しているのです。

一九三二年十月二十二日に、四人のカナダ人ブラザーたちが函館にその第一歩をします。彼らは、開拓者として日本の若者のために自分の人生を捧げる決意を持って、日吉の丘で学校を作ろうとしましたが、その精神は今も生きています。現在もお、恵まれない子供や若者のために、同窓会、在校生、先生方と保護者から、仙台ラ・サール・ホーム、ハイチのラ・サール校とタイのバンブースクールへの募金活動と寄付がなされています。特に同窓会の中には、後輩のための協力と同様にラ・サール精神に基づいて、恵まれない子供のために教育を与える機会を作らなければならないとお考えのOBは多いのではないのでしょうか。実際に、数年前から、南・北の同窓会が「勉学の機会を世界の若者に」というスローガンで育英基金を立ち上げて活動しています。

さて、聖ラ・サール自身は、裕福な家庭の特権を捨て、数少ない修道士たちと一緒に、恵まれない子供たちのために自分の人生を捧げました。このような聖ラ・サールの生き方を模範とし、また、大いなる熱意と厚い信仰心で、四人のカナダ人の修道士は、函館でラサリアン・ファミリーの土台を作ってくださいました。彼らの開拓的

な精神を受け継ぎOBの中から貧困にあえぐ若者のために精一杯、自分の人生を捧げたいという人材が輩出するように祈っています。さらに、グローバル化の進んだ現代社会において、世界第二位の経済大国になった日本から恵まれない人々のために、国際社会で活躍する人々がこれから多く出ることを期待しています。

我々は五十周年記念を一日で祝うのではなく、今から来年の十月二十三日の記念式典の日まで、様々な形で、いろいろな場で、言葉だけではなく、行動でラ・サールスピリットを活かしていくことが、我々の課題だと考えています。在校生に対して高いレベルの結果を望んでいることは当然のことです。同時に、同窓生の皆さんがいろいろな分野で活躍されることは、在校生に対しても大いに刺激になりますのでよろしく願います。

皆さんの母校は素晴らしい学園になっています。たとえば、最近、東京ではPTAとOBの間で新しい活動がなされています。PTAがOBの協力を得て、我が子が、立派な大人に成長するための学び合いの機会を持っています。この活動を通して、ラ・サールのファミリースピリットが育てられていると思います。

こうして、在校生の人数だけでは勿論なく、今や一万二千人を超える卒業生とその保護者の皆さんと教職員が大きなラ・サールファミリーとなって、ラ・サール精神はその中で生きています。百周年記念に向かって、素晴らしい五十周年の記念すべき年になりますよう祈っております。

La Salle Spirit continues to be fully alive within us!

同窓会 総会 報告 2009.8.22 函館ロイヤルホテル

八月二十二日（土）、ホテル函館ロイヤルにて同窓会総会が開催されました。

総会には百名を超す同窓生、遊佐悦大先生をはじめ九名の旧教職員、ラベル理事長、フェルミン校長が出席。また、札幌・東北・東京・西日本各支部からも出席いただきました。総会に先立ち午後三時から役員会を開催し、総会に向けて提案事項の説明と質疑がなされ、活発な意見交換の場となりました。午後五時からは講演会があり遠藤八郎氏（三期、東北福祉大学教授・同窓会東北支部支部長）が「日本語は日本人の文化である」との演題で講演されました。（6Pに掲載）

六時からの総会は物故者への黙祷の後、齊藤会長、ラベル理事長、フェルミン会長の挨拶に続き、定年を迎えられた沖田教頭へ記念品の贈呈が行われました。その後、議事に入り、事業報告、会計報告、監査報告、会則改正についての説明、五十周年記念事業への協力、役員改選提案が各担当役員からなされ、いずれも承認されました。

総会終了後、会場を移し懇親会が開かれ、卒業年次別にテーブルを囲み歓談の一時を過ごしました。出席者の紹介や、懐かしい旧教職員の方々の近況報告、五



十周年に向けて試作中のラ・サールウィンの発表等があり、最後に出席者全員が肩を組み宮崎先生の指揮の下、校歌と学生歌を斉唱し閉会となりました。
当日は同窓会グッズとしてネクタイ、ポロシャツ、Tシャツ、キャップ、ラベルピン等も販売し二十万円を超える売上となり、収益金は全て五十周年記念事業に寄付をさせていただきました。
尚、会則改正につきましては本誌にて旧会則を併記して掲載しておりますので御覧下さい。（7Pに掲載）
承認いただきました新役員は下記の通りです。



役 職	旧役職	氏 名	期
会 長	会 長	齊 藤 裕 志	5 期
副 会 長	事務局次長	星 野 裕	5 期
副 会 長	事務局次長	島 本 肇	8 期
副 会 長	副 会 長	佐 藤 友 康	12 期
理 事	副 会 長	塚 谷 善 次	9 期
理 事	事 務 局 長	清 水 昌 明	14 期
理 事	会 計	品 田 義 雄	15 期
理 事		岩 塚 晃 一	20 期
理 事		川 口 孝 徳	20 期
理 事		仲 屋 裕 樹	22 期
理 事	事務局次長	川 村 和 男	24 期
理 事		寺 井 慎 一 郎	25 期
理 事	会 計	十 文 字 正 樹	26 期
理 事		菅 原 雅 仁	27 期
理 事	会 計 監 査	國 谷 大 輔	28 期
理 事	会 計 監 査	永 澤 大 樹	29 期
理事(札幌)	副 会 長	宮 永 雅 己	7 期
理事(東北)	副 会 長	遠 藤 八 郎	3 期
理事(東京)	副 会 長	植 木 清 三 郎	4 期
理事(西日本)	副 会 長	薮 越 英 昭	4 期
監 査 役	副 会 長	佐 古 一 文	2 期
監 査 役	副 会 長	和 根 崎 直 樹	21 期
顧 問	顧 問	菅 野 剛 造	1 期
顧 問	顧 問	渡 辺 良 三	4 期

平成20年度 事業報告

平成20年

8月 23日	同窓会総会
9月 6日	西日本支部総会 出席／齊藤、品田
9月 20日	札幌支部総会 出席／齊藤、品田
9月 25日	同窓会会員名簿発行
9月 26日	第1回同窓会役員会
10月 4日	東北支部総会 出席／齊藤
11月 1日	学園追悼式 出席／齊藤
11月 7日	第2回同窓会役員会
11月 15日	会報第9号発行
12月 15日	学園クリスマス会 出席／齊藤
12月 26日	第3回同窓会役員会
平成21年	
1月 31日	同窓会入会式
2月 1日	高校卒業式 出席／佐藤
2月 13日	第4回同窓会役員会
3月 5日	ホームページのリニューアル
3月 26日	第5回同窓会役員会
4月 2日	入学式 出席／齊藤
4月 10日	募金実行委員会発足
4月 25日	全国支部長会議 東京
5月 15日	鹿児島同窓会との懇談会 出席／齊藤
6月 12日	第6回同窓会役員会
6月 20日	東京支部総会 出席／齊藤、清水
7月 3日	第7回同窓会役員会
7月 6日	同窓会奨学金選考会 出席／齊藤、十文字
7月 17日	拡大役員会
7月 24日	市役所ラ・サール会 出席／齊藤、菅野、渡辺、島本、清水
8月 6日	第8回同窓会役員会

平成20年度 会計報告

一般会計 (円)	
収入の部	A. 前年度繰越金 7,631,727
	B. 同窓会会費(47回生)(34,600円×179名) 6,193,400
	C. 同窓会グッズなどの売上げ 194,900
	D. 受け取り利息 5,977
	E. 名簿売上げ 4,100,507
	合 計(A) 18,126,511
支出の部	A. 会報 1,307,034
	B. 同窓会名簿データ保守・管理 196,320
	C. 総会補助(平成20年8月) 451,471
	D. 支部運営費 1,902,940
	E. 会議費補助(7回) 299,655
	F. ホームページ運営費(平成20年度) 1,704,605
	G. 支部総会への出席 1,111,422
	H. 寄付(ラ・サールホームとハイチ) 1,000,000
	I. 郵送料 280,167
	J. 名簿制作関係 3,952,326
	K. その他 159,915
	合 計(B) 12,365,855
次年度繰越金 (A) - (B) = 5,760,656	

奨学会会計

ラ・サール奨学基金	30,000,000
創立30周年記念事業費(728名)	9,542,021

奨学金平成21年度給付分(平成21年7月支給)

収入の部	1. 前年度繰越金 0
	2. 基金の平成20年度利息 32,016
	3. 奨学基金からの取り崩し 2,504,787
	合 計(A) 2,536,803
支出の部	1. 平成21年度給付金(24万円×10名) 2,400,000
	合 計(B) 2,400,000
次年度繰越金 (A) - (B) = 136,803	

ラ・サール奨学基金

内訳	商工中金	ワリショ-	20,000,000
	函館商工信用組合	定期預金	7,500,000

特別会計

I. 平成16年度一般会計剰余金からの定期預金	12,000,000
II. 50周年事業(平成21年4月以降)	11,507,434
平成21年3月までの合計(3月末に学校に寄付)	6,488,637

監査報告

一般会計・奨学会会計ならびに特別会計ともに、監査の結果、諸帳簿も整い適正に執行されていることを認めます。
平成21年8月26日(木) 監査 永澤大樹・國谷大輔



お知らせ

来年の総会は8月21日(土)ホテル函館ロイヤルにて開催と決定しました。多数の方々のご参加を期待しています。



講演

日本語は日本人の文化である

遠藤 八郎 (三期)

東北福祉大学 教授
同窓会東北支部支部長

一九六一年一月二〇日にJohn Fitzgerald Kennedyという第三十五代のアメリカ大統領が誕生しました。

私が中学校の二年生でした。彼の就任演説を聞いて私は世界に出て英語で渡り合えるような日本人になりたいと思いました。サールへ進学しました。高校二年生の時にそのケネディがテキサスのダラスで銃弾に倒れました。その日、ブラザーオーラスは正面玄關のポールに日の丸の旗を半旗として掲げました。先生は日本に住んで「郷に入れば郷に従え」という言葉もありますが、日の丸の旗に常に敬意を持たれておりました。今日、ここに海川先生がお見えです、私が三年の時の担任でありました。今でも先生の源氏物語など古文の授業をもっとお聞きしたいなと思っております。そういうことが日本人にとっても大事なことです。むしろ現代国語の授業より、古文や漢文の授業の方が将来、コミュニケーションをとる上でプラスになることが沢山あります。

私はラ・サールで一生懸命英語を勉強したものですからスピーチコンテストに学校の代表として教えを受けたレナード先生と一緒に札幌や東京へ行くことができました。先生からブリティッシュイングリッシュを学びましたが同時に、培った文化や伝統に誇りをもつことの大事さも教えられました。アメリカの英語も、英国の英語も大事にしないではいけません。と同時に日本人ならどうして日本語を大事にしないのか。

フェルミン校長もラベル理事長もとてもきれいな日本語をお話しになります。ここは日本ですから日本語でお話しになるのです。宮沢元首相は英語に堪能な方でした。彼がアメリカに行かれた際に英語でスピーチをしました。が時の国務長官キッシンジャーに「一国の代表は軽々しく外国の言葉でお話しにならない方がよろしいですよ」と言われたそうです。

英語の分からない日本人にも、日本の代表が外国で何を語ったかを分かって頂けるようにしなければならぬということ。英語ができればよいけれど、英語が出来るからといっていつでも英語で話してよいのかということ。なぜ日本人は外国語が下手かといえば日本語ができないからなの。これが問題なのです。教師になったのに「人前で話すのが苦手です」などという先生もおります。そういう先生には今すぐ教師をやめなさいとわたしは言います。そういう人に教師は勤まりません。今、ここにいらつしやる皆さんの日本語は大丈夫ですか。自信がありますと手を挙げる方はほとんどいないでしょう。英語にしても同じです。何を話してよいのか分からない、普段から自分に話すべきものがない、どうしゃべるかではなく、何を話すかという教育がもっと必要になってくるのではないのでしょうか。ラ・サール高校でもただ受験競争の中で生徒の指導を考えている方がいれば問題です。自己教育こそが教育です。

教師の役割は教えることではありません。私は学生達に徹底して本を読ませてコメントを述べさせ、何が勉強になったかをこまかく質問します。本を読むときにできるだけ声を出して読んでください。そうするといかに自分が日本語らしい日本語を話していないか分かるはず。それではどうやって日本語を学んでいったらよいと言うことですが、丸谷才一さんという方が「もののあわれ」についてこう指摘しています。「もの」とは「道理」ということであり、「あわれ」は「情感」です。日本語が上手になるにはこの「道理」と「情感」が揃った文章が書けるようになるということです。

イギリスのサッチャーは首相になった時に声を替えました。低いアルトの声に変えたのです。つまり外国の方は声が大変大事だと思っているのです。話の内容というものはそんなに重要に聞き手はとらえませんが、むしろ声がどういうふうに響いてくるか、それによつてその人の言わんとするところを人々は聞き分けてくれるのです。

かつて我々が学んだ当時、数学科に大場清太郎先生がいらつしやいました。先生は生徒の顔を見て話しません。黒板と語るのです。ああ、この先生は数学が好きなのだ。ということが体から湧き出てくるように感じた。いわば先生の背中で私たちは教えを受けたのです。こういう例は特殊でして、やはり教えるときは生徒の顔を見て語るべきでしょう。

オバマ大統領はスピーチの際にプロンプターを使います。これがアメリカのメディアでは不評です。彼のトークというのはプロンプターを使って、カメラを通じて一般の人に伝わるわけです。そこまでアメリカでは問題にします。それに引き替え日本の総理は原稿を読んでいるだけです、しかも読み間違えます。テレビの野球解説者が「汚名挽回」と言っていました、「汚名返上」なら分かりますが、正しくは「名誉を挽回する」でしょう。

私はアメリカでアナウンサーや役者の勉強もしました。日本に帰って「特別機動捜査隊」というテレビドラマにも出演していました。また映画にも出演しました。今だに将来役者をやってもいいなと思っております。コミュニケーションという言葉はよく耳にしますが、そんな生やさしいものではありません。「話せば分かる」というものでもありません。是非皆さんも日本語を運用するときに「もののあわれ」という発想をお持ち頂きたいし、言葉は音声ですからどういう音でお話ししたらよいのか、もう一つはあまり間をおかない、文節を切りすぎないということに心がけて頂きたいと思っています。

あなたが変われば、相手が変わります。相手が変われば心も変わります。人生が変わります。話せば何とかなるのではなく、何とかするように話をしましょう。
(テープ採録・文責 同窓会本部 島本)

函館ラ・サール高等学校 同窓会会則 (旧)

第1章 総 則

- 第1条 本会は函館ラ・サール高等学校同窓会と称し、本部を母校におく。
第2条 本会は会員相互の親和向上を目的とする。

第2章 会 員

- 第3条 本会は次の会員を以って組織する。
1. 正会員 母校卒業生
2. 賛助会員 母校現職員
3. 客員 母校旧職員

第3章 事 業

- 第4条 本会はその目的を達成するために、次の事業を行う。
1. 親睦会開催
2. 会員名簿の発行
3. 会員の慶弔
4. その他目的を達成するために必要な事業

第4章 賛助会員への委嘱

- 第5条 本会は賛助会員の中より若干名を同窓会連絡係として委嘱することが出来る。

第5章 役 員

- 第6条 本会に次の役員をおく。但し監査役は他の役員を兼任出来ない。
1. 名誉会長 1 名 母校校長が就任
2. 会 長 1 名
3. 副 会 長 若干名
4. 事務局長 1 名
5. 幹 事 若干名
6. 会 計 2 名
7. 監 査 役 2 名
8. 事務局員 若干名
第7条 役員の任務は次の通りである。
・会 長 本会を代表し会務を総括する。
・副 会 長 会長を補佐し会長に事故ある時はこれを代理する。
・事務局長 会務に係わる一切の事務処理を行う。
・幹 事 会員との連絡を掌り会の運営に当たる。
・会 計 本会の会計を掌る。
・監 査 役 本会の会計を監査する。
・名誉会長 本会に助言し賛助会員・客員との連絡をとり本会の重要事項について諮問に應ずる。
・事務局員 他の役員の任務を補佐し、主に母校との連絡を掌る。
第8条 名誉会長以外の役員の任期は2年とし、総会で選任する。但し再任は妨げない。

第6章 会 議

- 第9条 会議は総会、役員会の2つとする。
第10条 総会は本会最高の議決機関である。毎年1回これを開く。但し必要ある時は臨時総会を開くことが出来る。総会の議決は総会出席者の過半数をもって成立する。役員会は総会に次ぐ議決機関であり、随時これを開く。

第7章 会 計

- 第11条 本会の経費は会費その他の収入をもってこれに充てる。
第12条 正会員は会費として卒業の時に授業料月額相当額を納めるものとする。
第13条 本会の会計年度は定例総会から定例総会までの間とする。
第14条 本会の会計は監査役によって監査され総会において報告される。

第8章 慶弔及び謝恩

- 第15条 本会会員に対して社会的慶事がある時は祝意を表する。
第16条 本会会員死亡の際は弔意を表し香花料を贈る。
第17条 前2条の実施については役員会の議決による。

第9章 附 則

- 第18条 本会は昭和38年3月15日から実施する。
第19条 会則の改正は総会の議決によらなければならない。

函館ラ・サール学園 同窓会会則 (改正)

第1章 総 則

- 第1条 本会は「函館ラ・サール学園同窓会」と称する。
第2条 本会は会員相互の親睦ならびに研鑽を目的とする。
第3条 (1)本会本部を函館ラ・サール学園におく。
(2)本会支部は札幌市、仙台市、東京都、大阪府におく。その他の適宜な都市におく。
(3)新支部の設置は理事会において決定する。
(4)各支部の範囲は理事会において定めるものとする。

第2章 会 員

- 第4条 本会は次の会員を以って組織する。
(1)正会員 函館ラ・サール高等学校卒業生、ならびに函館ラ・サール学園に在籍した者のうち、理事会において正会員として承認した者
(2)賛助会員 母校現職員
(3)客員 母校旧職員

第3章 事 業

- 第5条 本会はその目的を達成するために、次の事業を行う。
(1)会員名簿の発行
(2)会報の発行
(3)本会および函館ラ・サール学園発展のため必要と認められる事業。
(4)その他、社会に貢献する適切な事業。

第4章 役 員

- 第6条 (1)本会に次の役員をおく。但し監査役はその他の役員を兼任できない。
会 長 1 名
副会長 若干名
理 事 若干名
幹 事 各卒業年度の正会員の中から若干名
監 事 2 名
(2)会長、副会長、理事及び監事は、理事会において正会員の中から選考した者を総会に上程し、総会の議決を以って選出する。
(3)会長は本会を代表し、会務を総括する。
(4)会長は理事者の中から本部事務局長を任命する。事務局長は会長を補佐し、理事会及び同窓会の事務を掌握する。
(5)副会長は会長を補佐し、会長に支障あるときは、会長に代わって業務を執行する。
(6)理事は本会の運営に当たる。
理事は支部長を含むものとする。
(7)幹事は理事会が任命する。
幹事は同期の正会員との連絡を掌り、本会の活動に当たる。

- 第7条 (1)理事会は会長、副会長ならびに理事を以って構成する。
(2)理事会は、本会の業務の執行に必要なあらゆる行為につき決定を行う。
(3)理事会は本会活動について諮問し助言を求めるため、名誉会長、顧問を委嘱することができる。
(4)理事会は必要に応じて、会長がこれを招集する。

- 第8条 監査役は会計監査を行う。
第9条 各役員の任期は2年とし、再任を妨げない。但し任期終了後の場合も、新役員が選任されるまでは、その任を負う。

第5章 支部役員

- 第10条 各支部に支部長および他の役員をおく。
第11条 各支部は年1回、支部活動、支部会計および会員異動を理事会に報告しなければならない。

第6章 総 会

- 第12条 (1)総会は本会最高の意志決定機関である。
(2)総会の種類は次のとおりとする。
①定期総会 毎年1回これを開催する。
②臨時総会 必要に応じて開催する。
(3)総会は会長が招集する。
(4)総会の議決は総会出席者の過半数を必要とする。

第7章 会 計

- 第13条 本会の経費は会費その他の収入を以ってこれに充てる。
第14条 正会員は会費として卒業時に授業料月額相当分を納めるものとする。
第15条 (1)予算は会長が作成し、理事会の議決を以って成立するものとし、会長が総会に報告する。
(2)会長は毎年、収支決算を行い、監事の監査を受けた上理事会及び総会に報告する。

- 第16条 本会の会計年度は8月1日より翌年7月31日までとする。

第8章 附 則

- 第17条 この会則は平成21年8月22日の総会で承認された後、直ちに効力を生ずるものとする。
第18条 会則の改正は総会の議決によらなければならない。

寮生活と
人格形成酪農学園大学附属
とわの森三愛高等学校
副校長黒 畑 勝 男
(15期)

ラ・サールで過ごした日々は、各々に固有の宝である。青春の輝きを放つ共有の宝でもある。そして、四六時中ともに過ごしたラ・サール寮での時間の結晶は、琥珀色になってゆく宝の核をなしている。体と心が最も著しく変わり大きく成長する時期に、それぞれが少年の人生にはなかつた経験を重ねてゆく。子供の無垢さや純粋さを知り残りながら、大人の社会に近づいてゆく日々には果敢に挑んでゆく。未知に恐れ、背伸びをし、ときに傷つき、見出し、自らの足で歩むことを覚えた日々であった。

大部屋の生活から始まり、第二寮、第三寮と次第に環境が変わっていく。徐々に自分の居場所やとるべき距離感を学び成長して行く。いつもそこに友がいて、そこで学び、互いに成長を確かめつつ歩んだ。確かめることは時には互いを否定し合うことでもあった。しかし、卒業を間近にする三年生の冬休み明けの受験の準備の中、誰もが別れ離れ行く寂しさに思い出を分かち合った。寮を去る日、抱き合って襟を濡らした友の温もりを忘れない。大人になるための冒険する日々の思い出は、あたたかな光となって一人一人の胸の中に今も輝いている。

寮生活は、学校ラ・サールの気風を、地で行くことであった。否、ラ・サールの気風、ラ・サールスピリットやファミリースピリットは寮気質を基にしたものだろう。

ただ、我ら十五期は卒業式もままならなかつたラ・サール学生運動を経験していない。また、十四期寮自治会からの十五期への寮生活・伝統・伝授の時と、十五期から十六期への伝承の際には、入魂会などの慣習を自ら大きくそぎ落としてきている。それゆえ、十五期が三年間で経験した寮生活の在り様を寮生活の伝統とは一概には言えない。ただ、寮生の暮らしぶりや流行、行動の習性はその時代々々のラ・サール気質を現していた。寮で主流の行動パターンやしぐさが学校を一斉風靡する（…TPOを弁えているとは言えない場面も多々あったと思うが…）。そして、ともすれば市街に繰り出すときのラ・サール生のスタイル、スタンスともなつた。「ラ・サールの生徒が、ラ・サールの生徒が、街中行けば、〇〇の（女）生徒が声をかける…」という無邪気だが自嘲的とも聞こえる歌が寮内で流行ったが、これもラ・サール気質を確認するためのコミュニケーションの方法であつたのだろうし、ラ・サール気質に一定の自覚があつたのだろう。

函館の風光もラ・サールの気風をつくつたと思う。函館の風、宇賀の浦の香り、街並みや商店街の新旧を併せ持つ風景、穏やかな気候や海と函館山、香雪園の丘陵も、日々、寮生の一人一人に、青春のページをしっかりと描かせた。

ある朝、予想した晴天だ。授業変更告知板で授業カットが知らされる。あらかじめ変更など知らないはずの生徒たちが、信じ

られない迅速さでジーンズスカンの準備を調え香雪園の丘に向かつている。ある時は一晚中語り明かす。寮の屋上から夜明けを眺め、湯川温泉街を巡って湯浜海岸まで徒党を組んで歩いてゆく。そして映画のシーン張り、海に向かつて「ばかやろうー！」など怒号する。あるいは、ある者は駅前に行きつけの店を持つ。あるいはまた、図書館に通い続ける者、元町のカトリック教会の高校生研究会に通う者がいる。普段の勉強や部活動は当たり前を送りながら、様々なドラマが展開されていたのだ。それがまさに自分たちであつたのだから、ラ・サール寮は青春の舞台そのものだった。その舞台を見守る学校と寮は、すばらしい教育力を持っていたのである。

ラ・サールの教育とは、日本語の「教育」という言葉が意味するところではなく、まさに英語でいうところの「educate」だつたように思う。「educate」は、「e」の「外へ」、「duc」の「引き出す」と、「ate」の「させる」を語源的に持つ語である。学校と寮の教職員がこぞつて、生徒一人一人の可能性と力を引き出すことに心を合わせていたように感じるのだ。自立と自律する力を基本的に高く備えた生徒たちが集まつてきたのだから、学校や寮の姿勢は企図されたものではなく、は自然な姿勢であつたのかもしれない。しかし、今流行の「自己責任」を問う姿勢を掲げながらも、一方で学校や寮はそれゆえのジレンマを密かに抱えたはずだ。教職員は皆、生徒たちの内側からの成長をじっと見守っていたのだろうと思う。寮生のおおらかな成長と今五十代に至つてますます深まりゆく友情、そしてそこに共有する温かい思い出は学校と寮教育の確かさの賜物なのだ。

だ。

十五期も東京、札幌や帯広、函館を中心に同期会が度々開かれている。「何か兄弟親戚のような集まりの雰囲気ですよね。何のお集まりですか?」「えっ? いつの同窓会なんですか?」としばしば訊ねられるのもその証拠だろう。寮生は、確かに友人とも兄弟とも違う範疇の仲間になつていったのである。違う道を歩んでいてもどこか心の深いところで繋がっている。同窓生、同期、という言葉では言い尽くせない絆がある。

十五期生も多くがインターネットのメーリング・グループでメールの一言配信を享受している。一九九八年、寮生の小笹君の呼びかけと管理でスタートしたメールでのグループ通信は、今は同じく寮生だった勝屋君に管理が引き継がれ、日本に限らず世界で活躍する同期のメッセージも瞬時に交換する。困ったときには互いに助け合う手段にもなっている。医師として活躍する仲間が問い合わせに活躍することも多くなつた。互いに異業種の仲間として楽しく情報を交換しながら絆を日々強くする。こんな同窓会はありません。人生の澁さと面白さ、辛さを感じるようになってきたが、母校ラ・サールも、学校の社会的使命をますます発現すべきフェーズに入ってきていると思う。

寮が新しくなる。ラ・サールは新たな使命を担つたと確信したい。日本の少子化の流れは止まらない。止まつたとしても国内市場の縮小で国力回復への時機を掴めない。他方、地球規模での変化が我々の近未来を脅かしている。世界の人口が現在六十八億

億一千万、国連の推計で一年におおよそ八千万人が増加している。十年後は七十五億、二十年後は八十一億という予測である。世界の諸事情を考慮すれば推計通りに増えないかもしれない。しかし、中国やロシア、東南アジアの経済成長の速さと大きさは、間違いなく世界の食料獲得競争を熾烈な状態にする。ほとんどの農業は灌漑農業で農業用水の確保は生活用水の確保とともに大きな課題となり、水の利用権料が経済や貿易の足かせになってくるのも近未来だろう。日本は新たに温室ガス削減の目標を宣言した。それによって多くの国内摩擦を孕むが、圧倒的な科学技術力と生産力でグリーン・ニューディールの潮流にいち早く乗る総意を持ち、しっかりと外需と外貨獲得で国力を支えつつ安くは買えなくなる食料に対して自給率を一年でも早く高める決意をしなければならぬ。十年、二十年、近未来に必要な人材をラ・サールが送り出したいものだ。その人材を育てる使命を、新たな寮がその一端を担うものと確信する。

地球環境の危惧を其処此処に感じ、ますます混沌の深まる世界に生き続けていく日本。これからの日本を支える人材育成が一つの教育の使命である。ただし、今人類が直面しているのは潜在的にある人類社会の終焉という問題であるから、高度経済成長期に国是とした教育の使命とは明らかに違った使命が日本の教育に求められている。だからこそ、公教育の機関でありながら、私立としてキリスト教に基づきラ・サールの掲げた教育の理念に立てられた母校は、ますます社会を照らす光を発するべきであると思う。

生徒全員が学校での三年間、キリスト教

に触れ続けたことは、それぞれ潜在的に影響を与えられたと思う。多感な時期に、見えないものがあることが語られ、その見えないものを信ずること、そして信じて行動することの大切さを直接的にも間接的にも知らされたのである。そうして隣人愛の根源を示されたことは、功利的な考えに走りがちな青春期の心に紛れもなく、失ってはいけぬ宝を注がれたと感じている。私自身も夜、寮から学校と修道院へ繋がる廊下の薄暗い裸電球の下を小走りで抜けて、亀浦先生（神父）の聖書研究会に土生君らとともに出席させていただいていた。それが私の今の人生の基とするものへの出会いともなった。

十五期の寮生の三熊君もリーダー観として、グループメール中で「（前略）：函館ラ・サール十五期生のすべてが、聖書とその教えに触れるチャンスを少なくとも三年間与えられました。自分と家族の幸せ、事業の成功、毎日直面する困難と立ち向かうことをやめるわけには行きません。しかし、それ以上に、今一度立ち止まり、自分の半生を振り返り、残りの人生をその延長線上に乗せるだけで良いのか、考えるべき時だと思いませんか？また、この終末を現実のものとして見据えて、やがて訪れる危機に対処しつつ、この国をリード出来るものこそが真のリーダーだと思いませんか？」と問いかけている。私たちは、ラ・サールに学んだ卒業生として、母校ラ・サールとともに新たな使命を共有したい。社会を牽引する人材を多く育ててほしいと思うし、少なくとも指導的良き市民を輩出してほしいと思う。

ラ・サール寮生は、素晴らしい理念と教

育環境を持つラ・サール高校の中核をなす。新しく建てられる寮が、世界が新たに必要とする人材を育てる巣となることを願う。世界を回復し新たな世界を創る新たな人材

の寮となるよう応援したい、ラ・サールスピリット、ファミリスピリットを卒業生として温めつつ…。

新高校寮建設中 H21.11.30 現在

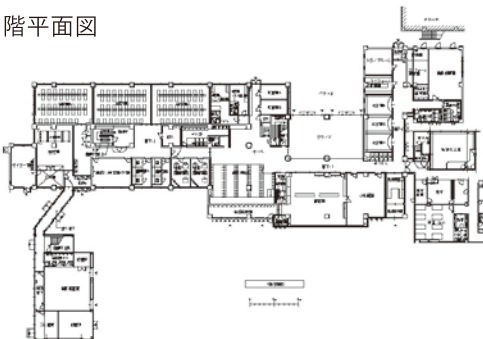


1 階床コンクリート打設完了

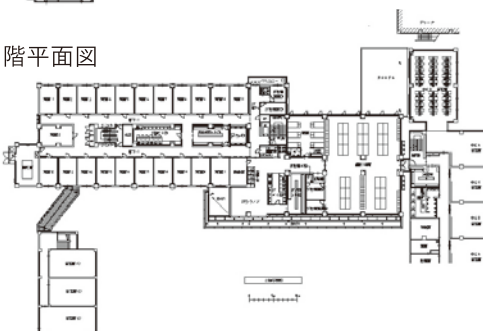


3 階躯体工事

1 階平面図



2 階平面図



3 階平面図





東京支部

2009.6.20



東京支部 支部長

植木清三郎 (四期)

本日は三〇〇名余のたくさんの方々にお集まりいただき有難うございます。本会も一九九二年の第一回同窓会から数えて九回目となります。第二回は二〇〇二年に一期の菅原・佐藤・吉田・小松等の諸先輩によりこころまできました。

今年は九期(昭和四十六年卒)と十九期・二十九期・三十九期が中心となり、本日の総会を運営します。

本日は懐かしい恩師の中越先生・林先生・沖田先生・前校長のラベル理事長・フェルミン校長にきて頂いております。ホセデルコス日本管区長は出張のため残念ですが来られておりません。また、今回はPTA関東支部より引田支部長他七名の参加をいただいております。また鹿児島ラ・サール東京同窓会より黒木会長他二十名の皆さん、函館地元の高校・中部(白楊が丘)同窓会・

西高(つつじが丘)同窓会の皆さん、函館市民会館長木村氏(九期)の他、多数の皆さんの御来席を得ましたことが喜びでございます。

現在、在校生は約一〇〇〇名ですが、この関東地区の生徒が二五〇名います。つまり四分の一は関東出身ということになります。旧くは北海道内、特に函館地区が多かったように聞いております。特に平成十一年(一九九九年)に中学校が併設以来この傾向が強くなったようです。今後、東京同窓会はPTA関東支部とのコラボレーションを深め、学校に協力して行きたいと考えております。

本日は講演として最高検察庁検事九期幕田英雄氏による「変わりゆく刑事手法―裁判員制度と被害者参加制度・ラベル理事長よりラベル先生のミッションについて・九期浜田均と赤城、古川の皆さんによるボサノバの演奏があります。お楽しみください。

東京支部

東京同窓会 第九回総会開催される

東京同窓会事務局 林 完自 (十四期)

東京支部(東京同窓会)の総会は今年で九回目の開催(継続開催では八回目)となりました。今年は、母校創立五十周年と東京同窓会十回目の総会開催を来年に控え、同窓生の間で「ラ・サール」について考える機会が増えています。

『原点に還る』というテーマを掲げた二〇〇九年総会は、会員一人ひとりが、共通の原点である母校との関わりや同窓会の在り方について振りかえる機会となりました。

た。十月二十四日には、函館からラベル理事長をお招きし、「ラ・サール」について考え、語り合うラウンドテーブルを開催しました。十月三十一日にPTA関東支部との連携企画で開催したパネルディスカッション「卒業生から保護者へのメッセージ」も3年目を迎え連携がさらに深まりました。学校や寮生活での体験談をOBから一方的にお伝えするだけでなく、在校生を育む「ファミリスピリット」についても保護者の方々とOBが話し合える場となっています。昨年八期の野呂氏が中心となって整備された同窓生の著作リストも、学校や在校生への贈り物として継続的に更新されています。「ラ・サール育英基金委員会」「海外交流委員会」や「本音で語る就職の会」など、鹿児島ラ・サール東京同窓会との共催事業への参加を通じて、鹿児島島のラサリアンとの連携も益々強まっています。

毎月開催の例会やミニ講演会に加え、部会、その他のイベントを通して会員同士の交流もすつかり定着してきました。音楽部会(<http://www.geocities.jp/hstokymusic/>)では、同窓生が出演する演奏会(東京ガス交響楽団、東京芸大等)の鑑賞企画に加え、グリークラブOBを中心に構成される合唱団アズマシモンが、東京同窓会総会での演奏のほか、夏祭り等の地域行事への参加を通して活動の幅をどんどん広げています。ゴルフ部会(<http://www.geocities.jp/hstokugolf/>)では年二回の親睦コンペを開催しています。通勤沿線の有志が結成した京王線友の会は、三ヶ月に一度くらいの頻度で、沿線のお店を開拓し、飲みながら食べながら、ざつくばらんに親睦を深めています。

今年は、同窓会本部の会則に各支部の位置づけが織り込まれたほか、四月には初の全国支部長会議が東京で開催されるなど、同窓会全体が、本部と各支部の連携を強めるフェーズに差し掛かっています。東京同窓会としても、多くの会員を擁する同窓会東京支部としての役割を十分認識し、函館本部や各支部との連携をさらに深めてまいります。また、五十周年を契機として、より幅広い年齢層が参加しやすい環境づくりを目指していきます。

東北支部

2009.10.3



東北支部 事務局長

伊藤恒敏 (六期)

東北同窓会は青森から福島まで、広い地域をその守備範囲としています。交通の便などのこともあり、会員が簡単には総会には出席できる状況にはありません。そこで、東北同窓会総会事務局では各県の世話人などと連絡を取り、各県に在住の会員に呼びかけて会合を開いて各県の組織の活性化を図る事業を目指して参りました。〇八年から〇九年度は盛岡市(二〇〇八年十月三十一日)と青森市(二〇〇九年一月二十四日)で会合を、藤村朗副会長(十期)および番地常夫副会長(十四期)の協力を得て開催いたしました。盛岡では学生も含め二十人程度、青森では真冬の季節だったこともありましたが十人程度の会員が集まってくれました。

今後このような各県での会員を呼び起こ

す事業を秋田、山形、福島で考えており、○九年から十年度はこのうち、少なくとも二県で活動したいと思っているとあります。

この他、東北同窓会では会報も定期的に発行しており、二〇〇九年七月二十日に総会の案内も兼ねて、第三号を発行し、会員各位に配布しております。

二〇〇八年から二〇〇九年度の東北同窓会（東北支部）総会が、二〇〇九年十月三日（土）、「コムズホテル仙台」で開催されました。今回で四回目の総会となります。

参加者は総勢三十五名ほどとなりました。

函館から齊藤同窓会長が駆けつけていただきました。齊藤同窓会長は毎年参加いただいています。また、ロドリゴ園長（仙台商・サールホーム）にもご出席をいただきました（ラ・サールホームの石井先生は体調を崩されておられるとのこと、参加されませんでした）。ロドリゴ園長は毎年参加いただいております。ロドリゴ園長は風邪を引いておられた様子で、それでも毎年、参加していただいていた感謝申し上げます。齊藤同窓会長、ラ・サールホーム園長に加え、今年も函館からマルチネス校長、ラベル理事長にも昨年に引き続きお出でいただき、感謝しております。校長先生や理事長が参加されると同窓会の雰囲気引き締まる思いがいたします。皆さんから心のこもったお言葉やご挨拶をいただきました。

今年の総会記念講演は副会長の藤村朗氏（岩手医科大学歯学部准教授）に「癌の治療法ー化学療法を中心にー」と題していただきました。藤村氏はユニークな抗がん剤の投与経路を考えている研究者ですが、解剖学を学生に教える傍ら、学生を毎日おも

しろさが尽きない研究へと「扇動」しているのだが、と講演で熱く語っておられました。

マルチネス校長とラベル理事長からの提案でバスケット献金が行われ、三万五千元近くの寄附が集まり、校長・理事長を介してタイのラ・サール会に贈られることになりました。総会の最後に、お互いに肩を組み合って全体が一つの人の輪になって、It's a long way to LaSalle High School"を大きな声で斉唱し、二次会へ、帰路へと散会となりました。

実は四月の東京での支部長会で東北支部が函館ラ・サール学園創立五十周年事業の一つである寄附事業への貢献が支部の中では最も低いというデータを見せられ、大変戸惑っていたのですが、東北支部としては本来、支部の事業として仙台商・サールホームへ会員から毎年の寄附を募っており、そのこともあつて五十周年への寄附には手が届かないのではないかと、内心危惧していました。かといってラ・サールホームへの寄附は中断するわけにもいかず、事務局としてはどのように対応すべきか、いささかならず、思案し頭を悩ませていたところ

です。

函館ラ・サール学園創立五十周年事業の一つ、記念式典が二〇〇九年十月二十三日に予定されているそうです。古手のOBはみんなそうだと思いますが、函館ラ・サール学園が創立されて五十年も経ったというのは尋常ならざる感慨です。この五十年は卒業生全員を含めての五十年であり、学園にとつただけではなく、OBにとつての五十年でもあります。来年の式典にはわれわれも自分たちにとつての五十年という月日を心にかみしめるため、ぜひとも、主体的

に参加したいものと考えております。

今後の予定ですが、既に東北同窓会会員には要請をしており、ラ・サールホームへの相当額の寄附が集まっているところではあります。クリスマスまでには再度、まだ寄附に応じておられない方を中心に呼びかけようと考えております。五十周年事業としての寄附も再度呼びかけをしなければと考えています。

同窓会活動は、基本的には卒業生が旧交をあたためる「場」です。人と人が出会って話すことから始まり、会報などを通じて情報交換を続けることが、基本であると事務局は改めて教えられています。特に東北同窓会事務局としてはラ・サールホームへの寄附は函館ラ・サール学園のOBとしての潜在的な社会的責任の一つのようにも思っています。五百名以上いる東北支部ですが、今後も年代や地域を越えて人の輪をしっかりと繋ぐ活動を着実に継続的に行っていくたいと思っております。

札幌支部 2009.9.26

札幌支部 事務局長

大山 慎介（十九期）

【総会・懇親会】

今年度の札幌支部の総会・懇親会は、九月二十六日に約一五〇名が参加し、賑やかに開催されました。

講演は、北海道医療大学病院 病院長の辻昌宏氏（九期）による「人類の歴史とコレステロール」。目から鱗のコレステロ

ールの話で盛り上がり、その後の懇親会に。学園からは、ラベル理事長。退職された先生では、懐かしい海川先生、宮崎先生。同窓会本部からは斎藤会長。東京支部からは林事務局局長など、多数駆けつけて戴きました。

また、今年度から正式に、PTA札幌支部の中村支部長他、役員の方にもご出席戴き、同窓会活動の新たな一歩となりました。

【話の中心は、やはり五十周年・・・実行委員長に吉澤氏（一期）】

総会で確認された事項を、簡潔にご報告します。

実行委員会を、札幌支部としても立ち上げ、委員長には、一期の吉澤先輩が就任。その他のメンバーは、事務局を中心に近々に決定し活動をスタートします。これに当たり、

①五十周年の諸般事業の検討及び運営に当たっては、各支部の意見が集約される形が必須であり、そのためにも、本部の寄付、祝賀会二つの実行委員会と連携を密にして積極的に進める。

②諸般の事業執行に当たっては、金銭が少なからず動くこととなるため、企業との連携が必要なケースでは、公募での選定など、手続きに慰労の無きよう留意すべき。

③この五十周年を機会に、今後の同窓会活動について考察し、同窓会として何をすべきかを考え、実行していくきっかけとしたい。

等が確認されました。

なお、函館支部の設置や北海道支部の設置等については、今回の総会に諮ることを見送りました。

五十周年を来年に控え、同窓会の規約に
やっと「学園の発展のため」という文言が
加わりました。昔の仲間が集って旧交を深
めるといふ同窓会から、しっかりと舵を切っ
たわけでございます。

札幌支部としても、肩に力を入れること
なく、さりとて機を逸することなく、学園
PTA、同窓会が三位一体となって、母校
の発展に何ができるか、少しずつでも実行
して参りたいと存じます。

西日本支部

2009.9.12



西日本支部長

薮越 英昭 (四期)

第十一回函館ラ・サール学園西日本支部
同窓会が、九月十二日(土)、滋賀県大津
の琵琶湖ホテルで開催され、無事終了しま
した。今年も函館からアンドレ・ラベル理
事長、齊藤同窓会会長、島本副会長、東京
支部から古旗副会長、鹿児島ラ・サールか
ら長尾大阪支部長、同窓生からは三期前田
浩先輩他総勢三十三名が出席されました。
ご出席をいただいた皆様方に対し心より御
礼申し上げます。今年の特徴として、今年
高校を卒業された七名の支部同窓生に対し
て、初めて招待状をお送りし山口冬馬さん
が出席してくれました。本当に嬉しく思っ
ます。感謝。

今年もラベル理事長による西日本支部恒
例の追悼式、オルガン演奏は澤朱里さんが
担当されました。十年連続しての演奏であ
り、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

その後、記念写真、懇親会と進み、お陰さ
まで短いひと時でしたが、楽しい時間を共
有することができ、喜びにたえません。

鹿児島との交流は、十年近く続いており、
今年も七月に鹿児島の大阪支部の同窓会に
出席。そこで一冊の小冊子を頂戴しました。
一九八三年鹿児島ラ・サール学園発行の
「ブラザー・オラス、人とことば」です。
オラス校長は、一九六一年二代目の校長
として函館ラ・サールに就任され、六年間
勤められました。小冊子の中で、聖ラ・サ
ールの精神について述べられておりあらた
めて深く感銘を受けました。彼はブラザー
達に神への全面的な献身を薦めてこう述べ
ています。「イエス・キリストは、忠実に
神に仕え聖旨を果たそうとする人をお見捨
てになったことはない。あれこれ気をもん
だり不安になったりしないで、生きている
今その時をよく生きるがよい」。私達もこ
の聖ラ・サールの教えに習い全力で臨みた
いものです。「奉仕の精神」では、今回も
募金四万四千円が集まりました。その善意
の寄付金をラベル理事長にお渡し出来た事
は大変嬉しく思います。

懇親会ではいつもの通りひとり一人が近
況報告を行い、そして最後に「It's a long
Way」を合唱し散会しました。



函館ラ・サール学園50周年記念事業 寄付金募集

1. 寄付募集期間

2006年9月1日～2010年12月31日

2. 寄付の方法

寄付の申込書、送金依頼書(郵便送金の場
合)を今回の同窓会報送付にあたって同封させ
ていただきます。個人名、又は団体名(同期会
等)その場合も責任者名を記載してください。
にて下記口座あてにお振込みをお願いします。
なお、寄付した方の確認のために同封の「寄付
金申込書は振込みの方法の如何にかかわらず、
所要事項を記載の上別途事務局までご送付
(FAX)ください。

【下記5(1)の税制優遇をうけるための書類の送
付に必要です】

3. 寄付のあて先

今回、従来からのみちのく銀行口座に加えて、
送金の便宜のために郵便口座を開設いたしま
した。

① 銀行口座

口座番号/みちのく銀行函館支店
(店番号091)普通預金2026043

口座名義/函館ラ・サール高等学校同窓会五
十周年記念事業(確認のため、送金者名のあ
とに回生クラス(例 ヤマダ タロウ 25B)を付
してください)

② 郵便口座

口座番号/0270001197817

口座名義/函館ラ・サール高等学校50周年記念
事業会

今回、郵便口座での送金依頼書(口座番号等
の必要事項印刷済み)を同封いたしますのでご
利用ください。

4. 寄付金額等

1口5,000円 出来れば2口以上でお願い
します。

(なお、同期の懇親会等での残余金等の場合
には端数金額も含めこの限りではありません)

5. 寄付に対する所得控除等の税制優遇について

(1) 個人の寄付金に関わる所得控除

「特定公益増進法人」として寄付金受入の制
度により、5,000円を超える寄付について確
定申告などにより、所得控除を通じて税制上の
優遇をうけることができますので学校名義の
「寄付金受領書」および「公益法人証明書」をお
送りします。

(2) 同窓会員が自己の経営する法人等の名義で
寄付する場合の損金参入

「受配者指定寄付金」制度により、企業として
の損金参入が認められます。本制度を利用する
場合の手順については、学園の事務局が担当す
ることになり、寄付金の振込先も異なりますの
で、学園事務局(担当…高田)までお問い合わせ
ください。詳しい資料を送付いたします。
(電話番号 0138-5210365)

6. 寄付者氏名の公表

同総会ホームページに寄付者名を随時公表し、
また同窓会会報等に掲載いたします。(匿名、イ
ニシャルなどをご希望の方はその旨通信欄にご
記入ください)

同窓会 グッズ ご紹介



50周年を記念してワインができましたー



※ご購入は、別紙申込書にご記入の上、
FAX(0138-100-0000)で
お申し込みください。



ホームページ・リニューアル

同窓会HPがリニューアルされました。新しいHPでは同窓会の活動をタイムリーにご紹介しています。懐かしい恩師の皆さんや、同窓生からの便り、各同期会の動き、学校行事、ラ・サール会の世界各地における奉仕活動もご覧いただけます。また、ラ・サール学園創立50周年記念事業については、概要と進捗状況の報告に加えて、募金活動の実績と募金者リストの閲覧が可能です。会報誌「日吉ヶ丘」のバックナンバー、同窓生著作リストなど、アーカイブも充実しております。是非ご登録をお願い致します。



<http://www.h-lasalle.com/>

09年大学別合格者数と年度別推移 クラブ活動成績 (主要なもの)

卒 業 年 度	2009 H21	2008 H20	2007 H19	2006 H18
国公立大学				
北海道大学	12	18	27	26
室蘭工業大学	1	2	2	0
帯広畜産大学	1	0	3	2
旭川医科大学	3	3	2	1
札幌医科大学	7	5	5	1
弘前大学	4	3	2	4
東北大学	2	4	6	8
秋田大学	1	1	0	2
山形大学	1	2	1	0
千葉大学	2	1	3	3
東京大学	3	5	4	3
東京外国語大学	1	0	1	1
東京農工大	1	1	2	1
東京工業大	1	0	4	0
一橋大学	4	0	0	4
横浜国立大	1	3	0	1
都留文大	1	0	0	0
ほくこで未来大	2	2	0	2
横浜国立大学	1	4	1	1
浜松医大	1	0	0	0
信州大学	1	1	2	1
名古屋大学	1	0	0	1
大阪大学	1	1	2	1
大阪府立大	2	0	0	1
佐賀大	2	0	0	0
琉球大	1	1	0	1
防衛大学校	2	3	0	4
その他の国公立大学	1	29	28	31
国公立大学・小計	61	89	95	100
私立大学				
酪農学園大	4	2	1	3
北海道医療大学	1	3	3	14
岩手医科大	2	1	3	0
神田外語大	2	0	0	0
国際医療福祉大	3	0	0	1
千葉工業大	1	0	0	1
青山学院大学	5	9	3	4
学習院大学	1	5	1	1
慶應義塾大学	16	6	10	13
國學院大	1	1	1	2
国際基督教大学	3	0	0	3
芝浦工業大学	2	2	1	4
順天堂大	1	0	3	0
上智大学	5	4	4	2
昭和大学	1	0	2	1
成蹊大	1	1	0	2
中央大学	13	20	14	14
帝京大	1	0	0	1
東海大	2	2	4	0
東京経済大	1	0	1	2
東京歯科大	1	1	0	1
東京医科大	1	0	1	0
東京農業大	6	4	4	1
東京理科大学	7	12	12	10
東洋大	3	2	0	1
日本大学	10	16	8	11
日本歯科大	1	2	2	0
法政大学	6	8	7	9
明治大学	12	14	15	12
立教大学	11	10	8	6
早稲田大学	16	17	14	12
金沢医科大	1	2	2	0
神奈川歯大	1	0	0	0
南山大	1	0	1	0
立命館大学	3	17	1	6
関西学院大学	3	1	0	1
立命館アジア大	3	0	0	0
その他の私立大学	26	71	69	84
私立大学・小計	178	233	195	222
総計	239	322	290	322

(平成21年4月9日判明分)

《高体連・高野連 その他の大会の記録》			
○剣道部			
高体連函館地区春季大会	団体戦 3 位		
高体連函館地区大会	団体戦 3 位		
○硬式テニス部			
高体連 春季大会			
団体戦 準優勝			
2 回戦より出場	対函館商業	3 - 0	
準決勝	対函館西	2 - 1	
決 勝	対市立函館	1 - 2	
個人戦 ダブルス	柴田・秋葉	優 勝	
高体連函館支部予選			
団体戦 準優勝			
2 回戦より出場	対函大有斗	3 - 0	
準決勝	対函館西	2 - 1	
決 勝	対市立函館	1 - 2	
個人戦 シングルス	柴田幸之介	優 勝	
高体連全道大会			
団体戦 ベスト 8			
1 回戦	対芽室 (十勝)	3 - 0	
2 回戦	対札幌光星	3 - 0	
準々決勝	対札幌西	1 - 2	
○硬式野球部			
第 48 回春季北海道高等学校野球大会			
1 回戦	ラ・サール 8 - 1	福島商業	
2 回戦	ラ・サール 9 - 6	森高校	
3 回戦	ラ・サール 0 - 7	函館商業	
第 91 回全国高校野球支部予選			
1 回戦	ラ・サール 0 - 6	市立函館	
○サッカー部			
春季大会			
2 回戦	ラ・サール 5 - 0	八雲	
3 回戦	ラ・サール 1 - 0	函館大谷	
準々決勝	ラ・サール 0 - 1	函大有斗	
地区大会			
2 回戦	ラ・サール 5 - 0	函館高専	
3 回戦	ラ・サール 0 - 1	市立函館	
○柔道部			
春季大会 団体戦優勝			
高体連地区大会予選			
団体戦 2 位			
個人戦 73kg 級	北川陽太	1 位	
81kg 級	川崎公輔	2 位	
90kg 級	稲垣博聡	2 位	
100kg 級	奥谷雅有	1 位	
全道大会			
団体戦 南北海道 ベスト 8			
○水泳部			
第 62 回高体連函館支部選手権			
400m メドレー R			
三浦・栗山・相馬・太齋	1 位		
○体操部			
高体連支部大会 一部団体 優勝			
高体連全道大会 一部団体 4 位			
○軟式野球部			
第 59 回北海道高等学校軟式野球選手権大会			
函館支部予選大会			
決勝	ラ・サール 3 - 2	函大有斗	
全道大会			
1 回戦	ラ・サール 2 - 12	旭川大高	
○ラグビー部			
春季高体連 準優勝			
ラ・サール 19 - 7	函大有斗		
ラ・サール 29 - 0	市立函館		
決勝	ラ・サール 12 - 38	函館工業	

○陸上部			
高体連函館支部大会			
200m	大久保	2 位	
400m	大久保	3 位	
400mR		4 位	
やり投	木 村	1 位	
走高跳	幸 地	決勝進出	
高体連全道大会			
200m	大久保	準決勝敗退	
400m	大久保	準決勝敗退	
400mR		準決勝敗退	
やり投	木 村	1 位	
走高跳	幸 地	決勝進出	
高校総体 (奈良インターハイ)			
やり投	木村	5 位	
道南陸上選手権大会			
400m	大久保	1 位	
やり投	木 村	2 位	
走高跳	幸 地	3 位	
《高文連・その他の大会・活動の記録》			
○グリー部			
第 1 回横浜国際ユース友好交流合唱			
フェスティバル 出演			
第 43 回北海道高文連南支部合同演奏会			
合唱の部 優秀賞 (支部代表)			
○放送部			
NHK 杯全国放送コンテスト北海道大会	出場		
《中体連・その他の大会の記録》			
○剣道部			
函館市中体連			
団体戦 優勝 (3 連覇・通算 6 回目)			
個人戦 鈴木 (介) 3 年 優勝			
渡島支庁中体連大会			
団体戦 準優勝			
ラ・サール 0 - 3 森			
個人戦 鈴木 (介) 3 年 準優勝			
○柔道部			
函館市中体連			
個人戦 81kg 級 谷川 丈太 優勝			
90kg 級 木村龍太郎 優勝			
中体連全道大会			
個人戦 90kg 級 木村龍太郎 準優勝			
○野球部			
函館市中学校春季大会 優勝			
1 回戦	ラ・サール 6 - 0	港	
2 回戦	ラ・サール 4 - 0	大川	
3 回戦	ラ・サール 2 - 0	宇賀の浦	
準決勝	ラ・サール 2 - 1	五稜	
決 勝	ラ・サール 2 - 0	亀田	
函館市中体連 優勝			
1 回戦	ラ・サール 7 - 3	宇賀の浦	
2 回戦	ラ・サール 15 - 0	恵山	
3 回戦	ラ・サール 2 - 0	本通	
準決勝	ラ・サール 8 - 1	湯川	
決 勝	ラ・サール 5 - 3	五稜	
中体連渡島支庁代表決定戦			
ラ・サール 2 × 1 上磯			
第 60 回北海道中学校軟式野球大会			
1 回戦	ラ・サール 2 - 1	向陽台 (千歳)	
2 回戦	ラ・サール 0 - 2	明倫 (苫小牧)	

住所変更通知

毎年、同窓会会報が多数「転居先不明」で返送されてきます。この会報がお手元に届いた場合でも、「転居先」に転送された場合は、次年度以降には「転居先不明」になる場合がありますので、お手数ですが、下記の「住所変更通知」を事務局に FAX していただくか、ホームページからご連絡いただくようお願いいたします。 ※本データは函館ラ・サール同窓会事務局が責任をもって保管し、同窓会名簿の制作及び同窓会・同期会の連絡以外の用途には一切使用しません。

切 り 取 り 線

FAX 0138-54-0365 (函館ラ・サール学園事務局)

★は必須事項

ふりがな		(旧姓) ※変わって いる場合
★氏 名	(姓)	(名)
卒業年次	西暦 年 3 月	回生
★現 住 所	〒 - (都・道・府・県)	(市・区・町・村)
電 話	TEL () - FAX () -	携帯電話

勤務先(学校)	名称	TEL () -
メールアドレス	(複数の場合はよくお使いになるアドレスを2つ) @ @	
同窓会サイト加入	済 ・ 未 (いずれかに○)	
通 信 欄	(連絡先を自宅以外とする場合、転居予定などがございましたらその旨をご記入ください)	